

## 1 岩手県滝沢市 滝沢市役所若者活躍推進室

「若い世代の行政参加の取り組みと評価について」

学生の「やりたい!」を止めずに後押しする行政の姿勢が印象的だった。学生からの疑問「FAX って何?」、ふるさと CM の YouTube 制作や SNS の使い方などで若者から教わることに、気づかされることなどの学びも多く、職員も楽しみながら協働できている様子。学生の本分である学業を妨げず、寄り添った就業条件などにも優しさを感じる。たとえ滝沢を離れてしまっても、記憶に残るようにとおっしゃっていた言葉からも、滝沢市を好きでいてほしい、いつか帰ってきてほしいとの思いを強く受けた。

滝沢市総合計画パンフレットの見出しは「やさしさに包まれた滝沢」とあった。しっかり実践されている。

人口減少、若い女性が出て行ってしまう悩みはどの市町村も共通している。市内に大学を2つ持ち、看護やソフトウェアなどの IT 関連と、地元企業とを直結した学部であることも、地元に残ってもらうための強みになる。産官学が一緒になり、若者を地元に残す仕組みを作っている。

箕輪町に大学はなくても、居住圏内にある信大や短大の学生を取り込んでいけばよいだけのこと。よいところの真似はいくらでもできると思った。

## 2 岩手県滝沢市 ビッグルーフ滝沢

「大ホール、会議室、図書館、観光案内、産直、レストランなどの滝沢市交流拠点複合施設」

白く明るい印象の大きな屋根の下に、箕輪町に欲しいものがすべて揃っている。用途に合わせてステージが変更できる最新の大ホール、中高生に嬉しいドラムの叩ける高防音スタジオ、調理台が動かせ小パーティもできるクッキングスタジオ、レストランに加え、ちょっとした道の駅のような産直品やおみやげを売るコーナーもある。図書館はもちろんのこと、広大な駐車場は400台分。イベントの集客も見込めそうだ。

地形や気候など、箕輪町と似た条件が目につくが、平野の広さが羨ましいところではある。

箕輪町に新しい図書館を作るという言葉も、ちらほら聞かれるようになった。

古い建物の長寿命化ばかりでなく、道の狭い隙間を縫うような場所に防災施設を作るのではなく、こうした思い切った施設や政策が、ビジョンがあれば、若者も楽しく過ごせエネルギーの発散場所となり、若い女性の雇用場所にもふさわしいと思った。

各会議室やスタジオ、ホールなどはしっかり利用料金をとっている。そうした運営の仕方も参考になった。

文化センターも、予算がないからと雨漏りのシミを放置せず、収益を上げる方法を考えては。

## 3 岩手県紫波郡紫波町 オガール企画合同会社

「オガール循環型まちづくり・環境コース」

今回視察のメインであるオガールプロジェクト。平成12年に発表された「新世紀未来宣言」がすばらしい。～100年後の子どもたちに紫波の環境をより良い姿で残す～母が見た風景を、浴びた陽の光を、感じた風を、清冽な水を…。

計画段階から、エネルギーを循環させる仕組みを構築し、森林資源を木質チップボイラーで、町の庁舎、オ

ガールタウンの施設、エコハウスに供給している。焼却ごみをゼロにし、家庭や事業者からの生ゴミを畜産業者と共同で堆肥にし、農作物へ利用している。また、森づくりや担い手育成なども企業や大学と連携して行う、本当の意味での循環をめざしていた。合宿のできる宿泊棟では、しっかり集客も行っている「稼ぐインフラ」だ。さすがです。

「当たり前と思っているものに価値がある」との職員の言葉が心に残った。我が町の長は「自然や山、風景やいい空気は田舎にはどこにでもある」と生徒たちの前では言っていた、正反対。

森を、神社の杜を伐採して、メガソーラーを敷き詰めた風景を子どもたちに残そうとしている箕輪町が悲しいです。

#### 4 岩手県紫波郡紫波町 紫波町役場

「NFT を活用したデジタル戦略について」

Web3タウン、ブロックチェーン、NFT（非代替性トークン）メタバースと難解な単語に理解するのに苦労した。説明を受けても「よく分かった」とは言い難い。ただ、地方自治体における共通の課題である財源確保のために、元町民である菅原氏の会社と締結し、公民連携で新しいことに果敢に、楽しんで挑戦している取り組みだと感じた。こうした取り組みに拒絶反応を示さずに、ゲーム感覚で？取り組める役場職員はアタマが柔らかいのだろう。理解するのに苦労したとおっしゃってはいたが。さて箕輪町ではどうだろう。真似はできないんじゃないかな。

#### 5 岩手盛岡市 木伏緑地

「公設の都市公園。公民連携・民間主導による管理」

雨が降ったりやんだりのなか、臨機応変に、そして効率よく実りある視察となるようにお話くださった職員の方の心配りが、まず印象に残った。内容も自慢話ではなく、困難だった点や苦労したところを話してくれた。本当に、箕輪町のためになるようにという愛がないと言えない内容だった。

##### 1. 木伏緑地について

例えば、テナントが長続きしないことや、空き店舗があるままだとか。でもそれは、収益を上げることが目的ではないので、空きがあってもチェーン店を入れるようなことはしていないとのこと。目的は、あくまで「公衆トイレの整備」であり、鬱蒼として治安に不安のあったスペースが、夜もランプで明るくデートにも相応しい雰囲気を醸し出し、初夏にはさぞ気持ちよさそうな芝生の緑地となっていた。若者目線を感じられた。

##### 2. 中央公園整備事業について

こちらの目的は「芝生の管理」。計画は、待機児童解決のために保育園を作る必要から始まったもの。わたしがいた頃は、科学館と先人記念館くらいしかなかったが、一帯が広い緑地のなかに、木をふんだんに使ったおしゃれな各施設が点在する気持ちの良いエリアになっていた。なかでも、園庭が雑木林のようにになっているトトロの森のような保育園が印象的だった。

##### 3. 盛岡市動物公園再生事業について、

昔はあまりぱっとしない岩山にある小さな動物園、としか覚えていないが、市の財政を圧迫していたらしい。今は、公民連携事業により、キリンやカンガルーもいて、ホームページもおしゃれな動物園へと変わっていた。時間があれば、訪れたかった。

全体を通じて

学生時代を数年過ごした岩手県に、まさか長野から、仕事で訪れることになるとは思わなかったです。人生は不思議。わたしが箕輪町を移住先に選んだことには、岩手・盛岡での思い出が影響しています。

日本のあちこちで過ごした親の転勤先でも、盛岡は大好きな町でした。山も風景も、人も、食べ物も、寒さも温泉も。そんな盛岡にちょっと似たところがある箕輪町を好きになりました。仙丈ヶ岳と岩手山の見え方が似ていたり、カラマツの黄色い紅葉が見られたり、寒いけれど、意外と雪は少ないところや、人がおとなしめで素朴で温かかったり。

今回、議員の皆さんも、口々に「箕輪町と似てるね、この辺はまるで竜東線だね」と言っているのを聞いてニンマリ。大好きだった岩手県が、今回 20 数年ぶりに訪れて、やっぱり大好きなままでいてくれたこと、さらにバージョンアップして、日本中から視察に訪れるような土地になっていたことがなぜか誇らしかったです。

盛岡もわたしの故郷のひとつなので。

盛岡は、ニューヨーク・タイムズで「2023 年に行くべき 52 カ所」の 2 位に選ばれています。また、大谷翔平はじめ、菊池雄星、佐々木朗希を続々と出す土地。先見の明や、人を育てる土壤があると思います。

そんな、盛岡や紫波町と共通点の多い箕輪町や伊那谷だから、真似のできる場所はたくさんあるはずだと思います。視察で吸収した良いお手本を、少しでも箕輪町に還元できるよう、箕輪町のよいところを残し、より魅力的な町にしていけるよう、模索していきたいと思います。

また、この機会に中高時代の旧友と会う時間を作ってくださった皆さんに感謝申し上げます。

ありがとうございました。